

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 17 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：山崎鯛介 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：後藤治 主 査 名：
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：我が国において、よりよい生活環境の創成のために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大している。建築文化に係わる史資料の収集・整理・公開のための「建築アーカイブズ」環境の整備は喫緊の課題となっている。本小委員会は、国立近現代建築資料館、その他建築アーカイブズ施設と連携し、アーカイブズ・ネットワークの確立と、収集・整理・公開のための共通の方法論を検討することを目的とする。 各年度活動計画： 初年度：2014 年度 - 学会大会（神戸大学）にて、「近現代建築資料全国調査特別 WG」の報告をうけた全国大会パネルディスカッションの開催 - 近現代建築資料の所在情報、属性、ならびに今後の対応の確認 - 上記、調査によって確認された建築資料の追跡調査の継続 2 年度：2015 年度 - 前年度、全国調査による所在情報調査をもとにした建築資料ネットワーク（連絡網）の構築と危機資料への対応の検討 - 上記、調査によって確認された建築資料の追跡調査の継続 3 年度：2016 年度 - アーカイブズ学の立場から見た建築アーカイブズの特徴と課題の検証 - 近現代建築物緊急重点調査事業調査（文化庁）対応 WG への協力として、戦後建築の価値に関するクライテリアを検討・提案する（専門 WG 設置）。 - 建築博物館構想における建築アーカイブズの役割について検討する。 4 年度：2017 年度 3 年間の追跡調査結果・近現代建築資料の現状の報告 - 今後の建築アーカイブズのあり方についてのシンポジウム 上記の、具体的な建築資料の調査活動と、それへの対応と平行して、 （1）建築資料の収集・整理・公開のための共通の方法論を検討する （2）学会ならびに関連諸機関の協力を仰ぎ、学会内外における建築資料の重要性と、その保管・運用に対する認識を高める （3）今後も公募が予想される、文化庁国立近現代建築資料館からの委託事業の受け皿となる体制の整備を進める	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし 主査：山崎鯛介（東京工業大学） 幹事：加藤雅久（居住技術研究所）、戸田穰（金沢工業大学） 委員（五十音順）：笠原一人（京都工芸繊維大学）、倉方俊輔（大阪市立大学）、齋藤歩（学習院大学／メディアデザイン研究所）、志岐祐一（日東設計事務所）、辻泰岳（東京大学）、津村泰範（文化財保存計画協会）、早川典子（江戸東京たてもの園）、本橋仁（早稲田大学）、増田泰良（東京工業大学付属科学技術高等学校）	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2015 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/academic/seika/11seika/index.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）（2015/7/3、7/24、11/20、2016/2/17）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	なし
講習会	なし
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	（2015 年度） 活動計画に掲げた 2014 年度文化庁委託事業による「近現代建築資料全国調査」の継続として次の 1 に取り組み、あらたな委託事業を受けた 2 の取り組みへの足がかりをした。 1. 今年度は、文化庁委託事業（2014 年度（2））のフォローアップを担当した 2. 文化庁委託事業「近現代建造物（建築）緊急重点調査事業」を受け、歴史・意匠本委員会下に設置された同事業対応 WG に参加した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 建築アーカイブズの学術的なあり方の調査研究と建築アーカイブズ活動への助言・協力 2. 他分野のアーカイブズ学の成果を参照しつつ、建築資料の特性をふまえた整理・保存方法についての調査研究を行う。 3. 建築アーカイブズ活動を通じた近現代建築の保存活用促進への協力